様式3

学校番号 91

令和 4 年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立鞍手高等学校　定時制課程

自己評価

学校運営計画（4月）			評価（総合）
学校運営方針	基礎的・基本的な学習の学び直しを中心に、意欲的に学ぶ態度を育て、社会的自立の基盤となる確かな学力の育成に努める。 個々の生徒の教育課題を明確にし、より深い生徒理解に努めるとともに、生徒の健康・安全の指導を充実させる。 個々の生徒の進路希望に応じた進路指導を行い、希望進路実現に対する意識の高揚を図るとともに職業意識を醸成する。		A
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
大変、落ち着いた雰囲気の中で教育活動を行うことができた。また、積極的生徒指導に努めた結果、その成果が現れている。 生徒が持つ教育課題の多様化に対応しながら、本年度はさらに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、活力ある学校づくりを推進する。また、生徒会を中心に、学校行事を充実させ、自ら学ぶ意欲を高める生徒を育成する。	基礎的・基本的学力の育成を行う。	ICT機器の積極的活用等、授業改善を図り、生徒が自ら学ぼうとする授業を目指す。	
	学校行事や生徒会活動の活性化を図り、出席率向上を目指す。	欠席や欠課が多い生徒への面談を充実させ、成績不振の生徒の指導・改善に努める。	
	個々の教育課題を把握し、生徒相互、生徒と職員の信頼関係をつくる。	外部機関との連携を深め、日常的に生徒に対する情報や意見交換をを行い、全職員の共通理解のもと指導を行う。	
	生徒の心身の健康状態の把握に努める。	個人面談や学校生活アンケートをもとに、生徒の生活状況を把握し、健康な学校生活が送れるよう支援する。	
	生徒の自主的な進路選択を支援する。	早期に進路希望を把握し、進路実現に向けた支援を行うとともに、進路講演会等職業意識を醸成する取組を積極的に行う。	
	生徒ひとりひとりを大切にし、人権が尊重される環境づくりに取り組む。	学期ごとに全職員で個人面談を行い、生徒ひとりひとりの状況把握に努める。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務	確かな学力の育成を行う。	授業改善を図り、魅力ある授業を実施し、授業への意欲を喚起する。	A	A	A	現在、全生徒にタブレットが配置されている。総合的な探究の時間や各教科で活用しているが、更なる活用を促したい。また、早期に進路を意識させ、出席の改善を図りたい。
		提出物などで理解度や学習状況を把握し、個に応じた授業を工夫する。	A			
		皆勤・精勤の表彰を年3回実施し、出席状況の改善を目指す。	B			
	円滑な進級・卒業と特別活動の充実を図る。	欠席・欠課が多い生徒や成績不振の生徒の指導・改善に努める。	A	A		総合的な探究の時間については、生徒が積極的に取り組めるように、内容の見直しを図りたい。また、家庭等との連携を密にし、生徒の個々の課題解決を図りたい。
		総合的な探究の時間やホームルーム活動の充実を図る。	B			
		家庭や事業所との連絡を密にし、生徒の状況把握に努める。	A			
生徒指導	生徒ひとりひとり共感的に理解する	個人面談の工夫改善を行い、より効果的な面談になるよう努める。	B	A	A	個人面談の内容を形式化せずに、個の状況に応じて、質問内容を工夫し、より共感的な生徒理解に努めたい。
		いじめの未然防止のため、教育相談の場を整備する。	A			
	安心・安全に生活できる環境をつくる	全職員での登下校指導に加え、休み時間の巡回も行い、問題行動等の未然防止につなげる。	B	A		全職員で下校指導や校内巡回を計画的に行い、問題行動の未然防止に努めたい。
		生徒の問題行動等に対し、迅速な情報共有を行い、適切な対応につなげる。	A			
	生徒に活躍の場を提供する	各委員会の役割を明確にし、生徒会活動を活性化する。	B	B		生徒会役員会議を行い、生徒が活躍できる場を設けたい。
進路指導	生徒の進路選択の支援と細やかな進路指導	生徒自らの能力や適性を発見させるためにも在学中の就業の促進を図る。	A	A	A	7割強の生徒がアルバイトを含め就業している。引き続き、「企業人講話」や「専門学校によるガイダンス」等を通して、生徒の就業意欲や進路意識を高めていきたい。
		企業人等による進路講話を実施し、自らの進路に見通しを持たせる。	B			
		進路ガイダンスを実施し、進学希望生徒への進路選択を早期に支援する。	A			
	生徒への進路情報の提供	職業安定所との連携を深め、的確な就職支援を行う。	A	A		卒業予定者全員が希望する進路先に内定した。今後も、職業安定所との連携を深め、きめ細かい就職支援を行うとともに、上級学校の入試方法に応じた進学指導を行っていきたい。
		オープンスクールや学校説明会等への参加を促進する。	B			
保健	心身の健康の保持増進を図る	定期健康診断の意義を周知し、受診率100%を目指す。	A	A	A	健康観察の徹底、健康診断の受診率100%になるような対応を考え、実践を図りたい。
		生徒指導部と連携し、生徒の生活環境を把握し、健康な学校生活が行えるよう指導助言を行う。	A			
	給食指導の充実	食事のマナーや感染防止の指導を適切に行い、給食施設の衛生管理を行う。	B	A		感染防止対策、清潔、保温効果、残食数の軽減のため、食器の変更を行い、安全な給食提供を図りたい。
	環境整備と美化	生徒会と連携し、清掃活動を定期的に行い、環境美化を強化する。	A			
部活動	部活動の活性化（部員数を増やす）	活動場所や道具類の管理を徹底する。	B	A	A	道具類の管理マニュアル等を作成し、丁寧に使用することや、部活動成績の向上のために意欲的に活動できる環境の構築に努めたい。
		部活動におけるいじめの防止と早期対応に努める。	A			
		部活動内でのルールに共通理解を持ち、意欲的に取り組める環境を作る。	A			
人権・同和教育	人権が尊重される学校づくりの推進	人権が尊重される「学習環境づくり」「人間関係づくり」のため、個人面談を工夫する。	A	A	A	互いの人権を尊重する人間関係を築くことができるように、言語環境や態度についての指導を充実させる。
		「安心安全な学校生活」実現のため、生徒の言葉遣いの指導を全職員で行う。	B			
	家庭・地域、関係機関及び校種間の連携	家庭訪問、校種間での情報交換、職場訪問、ハローワーク等との連携を密にする。	A	A		事務室や学級担任と連携を密にし、奨学金や就学支援金、奨学給付金について情報共有を行い、就学の経済的支援を充実させる。
		生徒の発達段階に応じた系統的な取り組みに努める。	A			
		全職員で生徒の情報を共有し、生徒の希望進路への実現を支援する。	A			

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・一人一台端末が配備されたことを踏まえ、教職員の活用能力向上に向けて、ICT支援員を活用した職員研修を実施する。総合的な探究の時間の更なる充実を図る。
・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、その他関係機関との連携を密に行い、個人面談を充実させることで適切な生徒支援に繋げる。
・入学してくる生徒が多様化していることを踏まえ、生徒や保護者のニーズに対応した特別支援教育の充実に努める。
・毎日の健康観察を確実に行い、生徒の健康管理に努める。給食に関しては、大切な教育活動の一環として、調理員と連携し食育及び衛生管理やアレルギー対応に努める。
・生徒の実態に応じた人権教育を充実・発展させる。担任と修学支援教員との連携を密に行い、生徒の実態把握や指導改善に努める。

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である
A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	少人数ならではの丁寧な授業がなされている。今後も教職員によるプロジェクトチームを立ち上げるなどして、一人一台端末の積極的活用に取り組んでいただきたい。
A	カウンセリングや個人面談をとおして、生徒個々の実態を把握し、きめ細かな生徒指導に繋げていただきたい。
A	卒業生全員の進路が希望どおり決定し、キャリア教育の成果が出ている。今後も社会に即、通用する生徒の育成を図っていただきたい。
A	定時制にとって給食は大切な教育活動の一環である。新型コロナウイルス感染症対応やアレルギー対応等の更なる充実に努めていただきたい。
A	部活動の意義や目標を明確にし、より多くの生徒が充実した学校生活を送れるよう支援していただきたい。
A	多様な背景を持つ生徒が多く在籍していることを踏まえ、人権教育を更に充実・発展させていただきたい。

評価項目以外のものに関する意見

「働きながら学べる学校」「最後の学びや学び直しの場」という定時制としての役割を果たすべく、安心・安全・アットホームな学校であることを地域や中学校へ広くアピールしていただきたい。